

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名：一般国道1号 笹原山中バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 中部地方整備局	
起終点 自：静岡県三島市山中新田 至：静岡県三島市笹原新田	延長	4.3km	
事業概要 笹原山中バイパスは、三島市笹原及び山中地区の現国道1号において、線形に起因した事故が多くみられことから、交通の安全性、走行環境の改善を図るために計画された延長約4.3kmの4車線道路である。			
S63年度事業化	H-1年度都市計画決定 (H-1年度変更)	H-3年度用地着手	H-5年度工事着手
全体事業費	約130億円	事業進捗率	約27%
計画交通量	12,500台/日		
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 2.1 (残事業) 3.2	総費用： (残事業)/(事業全体) 94/144億円 (事業費：78/128億円 維持管理費：16/16億円)	総便益： (残事業)/(事業全体) 305/305億円 (走行時間短縮便益：272/272億円 走行費用減少便益：31/31億円 交通事故減少便益：2/2億円)
基準年：平成15年			
事業の効果等 ・個性ある地域の形成（伊豆・箱根の観光地へのアクセス向上が見込まれる） ・生活環境の改善・保全（現道沿線的生活環境保全と騒音レベル低減が見込まれる） 他3項目該当			
関係する地方公共団体等の意見 笹原山中バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、三島市、三島市議会、自治会を中心に「国道1号笹原山中バイパスの整備促進」の要望を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・死傷事故件数は、近年増加傾向（線形に起因する事故が交通事故全体の約8割を占める）			
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・埋蔵文化財発掘調査継続中 ・笹原・山中地区工事施工中			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・平成20年代前半、山中地区供用予定 ・平成20年代半ば、笹原地区供用予定			
施設の構造や工法の変更等 ・構造の見直しによるコスト縮減を予定			
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図 			

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。